

ワークショップでお伝えしたいこと

・放射線は目にみえず、臭いもしないものです。

・また、単位を中心に普段聞きなれない用語がたくさん出てきます。

・そのために、何がしか恐怖感をお持ちの方も多いかと思います。

・人類は、便利で有用な放射線を発見して以降、1世紀近くにわたって、負の影響もある放射線からの防護をどうするか研究してきました。

・この研究の成果として、現在では、人を防護するための量(=実効線量)を計算で求めることができるようになりました。

・この計算には、放射線の線源がどこにどれだけあるのかと、線源から出た放射線のルートを知る必要があります。

・この放射線のルートをパスウェイと呼びます。

・パスウェイごとの実効線量を知ることにより、感覚的な恐怖を和らげて頂けると考えます。

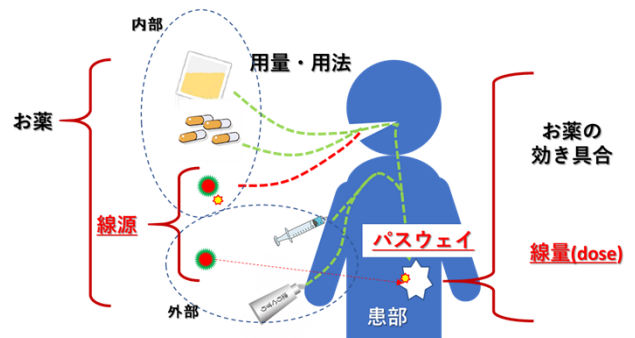
・そして、防護措置を選択していただくことにより、その防護措置の効果を体験していただくと考えます。



1マイクロシーベルトです



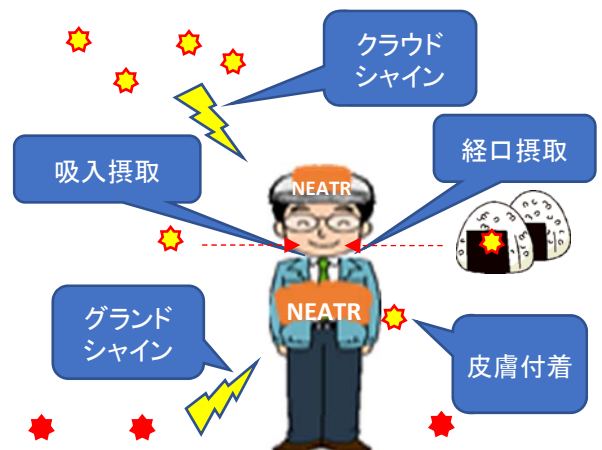
パスウェイとは
お薬が患部に到達するルートのようなものです。



【お伝えしたいメッセージは】

1. 感覚的な恐怖感からの短絡的な行動を避けることの重要性

2. 身を守るための、放射線リスクの事前評価(アセスメント)の重要性



ワークショップでしていただきたいこと

ステップ1

主催者側からパスウェイモデルの説明と、ワークショップで目指すゴールを説明します。

ステップ2

参加者の皆様には、まず、公衆モデルを選択していただきます。公衆モデルは年齢、性別、健弱を組み合わせたファミリーモデルです。防護措置が適用できないモデルもあり、また、実効線量の計算過程が異なるものもあります。1人当たりの実効線量を小さくできるモデルを選択するのがコツです。

ステップ3

基本的な防護措置(屋内避難、近傍避難所移動、遠方避難所移動、自主的避難のどれか)を選択していただきます。選択された公衆モデルによっては、ヘルパーが必要となる場合があります。

ステップ4

最後に、ヘルパーの支援を受けて行う補助的防護措置(飲料水摂取制限、安定ヨウ素剤服用、身体除染、ハンドメイドシェルター)を選択していただきます。全部を選択すれば、ヘルパーの実効線量は増えます。

ステップ5

主催者側から、即座に選んでいただいた防護措置での実効線量低減効果を下表例のような形で、参加者おひとりおひとりに、お知らせします。その結果について、皆様で議論していただきます。(©の事前メール参加の方は、議論内容を後日お知らせします)

パスウェイモデルの試算例

モデル		無防護モデル	家族4人モデル
評価期間		7日間	7日間
条件		成人モデル	成人モデル、小児モデル
選択した防護措置		(経口摂取・皮膚汚染あり)	近傍避難所へ徒歩避難 飲料水摂取制限あり
1人当たり実効線量	クラウドシャイン	1.3	0.3
	グランドシャイン	269.2	63.3
	吸入摂取	114.6	9.5
	経口摂取	1.8	0.0
	皮膚汚染	0.8	0.8
	ヘルパー線量	0.0	9.3
	合計	387.7	83.2

選択して頂いた公衆モデルです。

選択された基本的防護措置と補助的防護措置です。

選択した公衆モデルと防護措置により、パスウェイ毎の実効線量は異なってきます。

- ・実効線量の単位はミリシーベルトです。
- ・「0.0」ミリシーベルトは、ゼロではありません。
- ・実効線量は、決して「被ばく量」ではありません。
- ・また、現実を模擬するものでもありません。
- ・無防護モデルの1人あたりの実効線量は、100ミリシーベルトから500ミリシーベルトの間となるよう、パラメータを調整しています。

ワークショップは、この差を、ゲーム形式で争うものです。無防護モデルは、まったく何も防護措置をせず、屋外にいて、飲料水を摂取し、皮膚汚染もあるモデルです

補助的防護措置には、ヘルパーの実効線量が必ずあります。